

## 学力向上にかかわる学校経営方針

- 生徒の実態、学力調査等のきめ細かな分析により、改善への方策を明確にする。
- 言語活動の充実を図り体験的な学習を取り入れた授業展開をすべての教科、領域で積極的に実施するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う。
- 学習のねらいと振り返りの場面の設定を明確にし、基礎的、基本的な学習の定着と活用力の育成に努める。
- 少人数指導やチームティーチングを効果的に活用し、個に応じた指導の充実を図る。
- ICT機器を積極的に活用し、生徒の主体的な授業参加により、情報活用能力、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- 朝読書や図書館教育を充実させ、生徒の読書力を伸ばし、生き方を考え、生徒の教養を高める。
- 生徒一人一人に応じた、きめ細かな指導を進める。
- 通常学級における支援を必要とする生徒への指導体制の整備を進める。
- 授業のユニバーサルデザイン化を進め、誰にとってもわかりやすい授業づくりに努める。
- 特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習の充実を図る。

## 現状と課題

- ・地理的分野より歴史的分野の方が定着できていない。歴史的分野に関心を持つ生徒は多いが、歴史の流れを理解していなかったり、歴史の出来事の起こった場所の理解が浅い現状がある。
- ・地理的分野では、国名、都道府県名などの基本的事項は定着しているが、気温図等から気候の特色を説明したり、産業の特色を述べる問題に苦手傾向が見られる。
- ・グラフ、写真、地図などの資料を活用する問いに関しては、高い正答率が見られる。
- ・地理的分野と歴史的分野を合わせた複合問題（活用問題）については、活用ができない生徒が多い。
- ・どの分野においても、関心が高い生徒と低い生徒の多様化が見られる。

## 課題解決のための方策

- ・国名や地形名などは比較的繰り返して学習してきたことについては、定着ができているので、資料を活用しながら項目ごとにポイントを押さえ、繰り返し学習していく。
- ・考える力・表現する力をつけるために横断的な学習に重点を置き、各分野を関連づけるポイントを精査し、授業を計画的に実践する。
- ・ノート整理など、基本的なことを定着させる。
- ・週ごとに復習を繰り返し行っていく。
- ・時事問題を活用しながら、現代社会の課題について考える時間を設ける。

## 授業における指導の工夫

- ・本時の流れを提示し、めあてや本時の課題を理解させる。  
(導入で大きな発問を行い、1時間の授業の見通しを持たせる。)
- ・授業を活性化教材・教具の工夫をする。  
(資料の精選やICTの活用を通し、興味関心を高められるようにする。)
- ・言語活動を通して、意欲を持ち、自主的・主体的に学習する生徒を育成する。  
(ペアや班学習、話し合いを通じて、他の生徒の意見を聞いたり自分の意見を伝えられるようにする。)
- ・一問一答では既知事項の確認をし、社会的な見方・考え方ができるように理由や考えの根拠を明らかにできるような発問の工夫をする。  
(導入で大きな発問を行い、1時間の授業を通して解決するように取り組む。授業のまとめの時には本時のねらいに対する答えを言えるようにする。)
- ・チャイムテストや小テストを活用し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。  
(社会が苦手な生徒でも、ポイントをおさえて学習できるようにする。)